

## 平成 26 年度 決算 の 状 況

我が国の経済は、家計や企業のマインドが改善し、消費等の内需を中心として景気回復の動きが広がり、4月からの消費税率引上げによる消費の落ち込みが懸念されましたが、雇用情勢は医療・福祉や建設関連を中心に求人が増加し、また、円安による輸入物価の上昇という悪影響は、原油安により緩和され、エネルギーコストの軽減など企業収益にプラスに作用するとともに、日本を訪れる外国人旅行者の増加などにより、GDPはプラスに転じ、景気は緩やかな回復傾向を持続しています。一方で、「大胆な金融政策」、「機動的な財政政策」、「民間投資を喚起する成長戦略」の「三本の矢」からなるアベノミクスによる経済政策の効果が、地方にまで十分に波及していない現状を踏まえ、経済の好循環を確かなものとし、地方にアベノミクスの効果を広く行き渡らせるよう、消費税 10%への引上げ時期を、平成 27 年 10 月から平成 29 年 4 月に 1 年半延期しています。

2015 年春の北陸新幹線金沢開業や第 66 回全国植樹祭は、本市が「北陸の際立ったまち」として飛躍するチャンスであり、まちづくりの大きな成長期を迎えました。北陸新幹線金沢開業を見据えた JR 小松駅周辺の拠点施設整備は平成 25 年度に完了しており、「歌舞伎のまち」「科学と交流」「乗りもののまち」「環境王国こまつ」の 4 つのテーマに大別し、本市の豊かな地域資源を活かした誘客促進を展開するとともに、第 66 回全国植樹祭に向けて、オール小松市で「フローラルこまつ」「グッドマナーこまつ」の取り組みや木場潟までのアクセス道路の整備を進めました。また、「子どもたち、みんなの夢のために」の実現に向けて、中間所得層の保育料の引き下げ、こども医療費の自己負担額の見直し、子どものインフルエンザ予防接種に対する助成制度の創設など子育て応援体制を拡充し、全国トップレベルの「出産・子育てしやすいまち」の

グレードアップに努めました。

歳入歳出性質別決算の対前年度比を見ると、歳入では、主力の製造業を中心とした企業業績の回復基調により法人市民税が増収となり市税全体として3.8%（約5.9億円）の増収となりました。一方で、税収増により財源調整機能として交付される臨時財政対策債を含めた実質交付税については、4.9%（約3.7億円）の減収となりました。また、平成25年度限りの地域の元気臨時交付金の廃止などにより国庫支出金は17.0%（約13.9億円）の減となり、これらの結果、全体で6.3%（約14.1億円）の減となりました。

歳出では、人件費については、人事院勧告により7年ぶりに月例給・ボーナスともに引き上げられたものの、退職者の減による退職手当の減により、人件費の総額では1.6%（約0.9億円）の減となりました。扶助費については、臨時福祉給付金や子育て世帯臨時特例給付金の国の臨時的な給付制度などにより6.2%（約5.1億円）と増額となりました。投資的経費については、サイエンスヒルズこまつや曳山交流館みよっさの整備など北陸新幹線金沢開業を見据えた拠点施設整備が平成25年度に完了しており36.1%（約32.3億円）と減額となり、全体的に6.0%（約26.7億円）の減となりました。

なお、各会計の決算状況は次のとおりです。

## 1. 一般会計

予算額43,782,114千円の内1,269,878千円を次年度に予算繰越しし、決算額は、歳入42,376,591千円、歳出41,753,450千円で、繰越財源110,417千円を除いた実質収支額は512,724千円の黒字決算となり、その内260,000千円を基金へ積立て、実質繰越額は252,724千円となりました。

## 2. 特別会計

### (1) 国民健康保険事業

予算額 11,477,008 千円に対し、決算額は、歳入 11,400,059 千円、歳出 11,160,848 千円で、実質収支額は 239,211 千円の黒字決算となり、その内 120,000 千円を基金へ積立て、実質繰越額は 119,211 千円となりました。

### (2) 簡易水道事業

予算額 33,200 千円に対し、決算額は、歳入歳出とも 33,048 千円となりました。

### (3) 農業集落排水事業

予算額 486,750 千円に対し、決算額は、歳入歳出とも 479,033 千円となりました。

### (4) 介護保険事業

予算額 9,379,162 千円に対し、決算額は、歳入 9,384,626 千円、歳出 9,322,804 千円で、実質収支額は 61,822 千円の黒字決算となり、その内 2,771 千円を基金へ積立て、実質繰越額は 59,051 千円となりました。

### (5) 公債管理

予算額 8,353,400 千円に対し、決算額は、歳入歳出とも 8,349,952 千円となりました。

### (6) 工業団地造成事業

予算額 1,437,100 千円の内 4,000 千円を次年度に予算繰越しし、決算額は、歳入歳出とも 1,432,695 千円となりました。

### (7) 後期高齢者医療

予算額 1,252,987 千円に対し、決算額は、歳入 1,203,104 千円、歳出 1,201,483 千円で、実質収支額は 1,621 千円の黒字決算となりました。